

1 洪水ハザードマップの使い方

(1) 自宅の位置を確認して印をつける

自宅がどのくらい浸水するおそれがあるのか、また地すべりなどが発生する危険がないかを確認しましょう。

(2) 自宅周辺の避難所を確認する

自宅から近く、利用が可能な避難所を確認しましょう。

(3) 避難経路を検討する

自宅から避難所までの安全な避難経路を2つ以上探しましょう。

アンダーパスや地すべりなどが発生するおそれのある危険な箇所は、通らないようにしましょう。

(4) 避難経路を実際に歩いてみる

避難所までに必要な時間を把握しましょう。河川や水路などの危険な場所も確認しましょう。

(5) わが家の避難地図に自宅から避難所までの経路を書いておく

日頃から洪水ハザードマップの内容をよく確認し、自宅周辺の危険な場所を把握しておきましょう。

定期的に家族や地区で話し合い、避難方法などを確認しておきましょう。

洪水ハザードマップは家族が分かりやすい場所に掲示し、地区の避難訓練に利用するなど、災害発生時に対応できるようにしましょう。

2 避難するときの注意事項

(1) 少しでも危険を感じたら、自らの判断で速やかに避難しましょう。

(2) 浸水が想定される区域のみなさんは、最寄りの利用可能な避難所へ避難しましょう。

(3) 浸水により動けなくなるおそれがあるので、車での避難はやめましょう。

(4) 逃げ遅れたときは、垂直避難（2階以上）し、救助を待ちましょう。

(5) 日頃から非常持出品を準備し、避難時に持ち出せるようにしましょう。

3 その他

(1) 雨の降り方によっては、洪水ハザードマップに示されない場所でも浸水があり、浸水深も深くなる可能性があります。

(2) 国や県が作成した図面の浸水想定条件では、庄川上流の雨量、上流のダムの放流や用水路氾濫の影響は考慮されていません。

上流域で集中豪雨が続くときなどは、十分な注意が必要となります。

(3) 洪水ハザードマップは、洪水に対して作成しているため、地震では利用できませんのでご注意ください。